

第5回 ロボット あそびで サイエンスカフェ

参加費
無料

2023.3.19 日 14:00-16:00

テーマ ロボットで人の発達を知る、支える

人は赤ちゃんから子ども、大人まで発達していくなかで、様々な能力や知識を得ていきます。人の発達に寄り添い、共に生きるロボットは実現できるのでしょうか？ 今回、ロボットを使って赤ちゃんのこころの発達を調べる研究と、ロボットを使って人の学びやコミュニケーションを支援する研究について、大阪大学の研究者が紹介します。

会場 Zoom (定員 500 名・先着)

対象 高校生から大人向け

参加申込・ホームページ

プログラム

14:00 ~ 14:10 オープニング
共生知能システム研究センターのご紹介

14:10 ~ 14:45 話題提供 1
鹿子木 康弘 大阪大学大学院人間科学研究科・准教授
人工物から赤ちゃんのこころを知る

14:50 ~ 15:25 話題提供 2
吉川 雄一郎
大阪大学大学院基礎工学研究科・准教授
人のコミュニケーションを支える
ロボットの開発

15:30 ~ 16:00 質問タイム

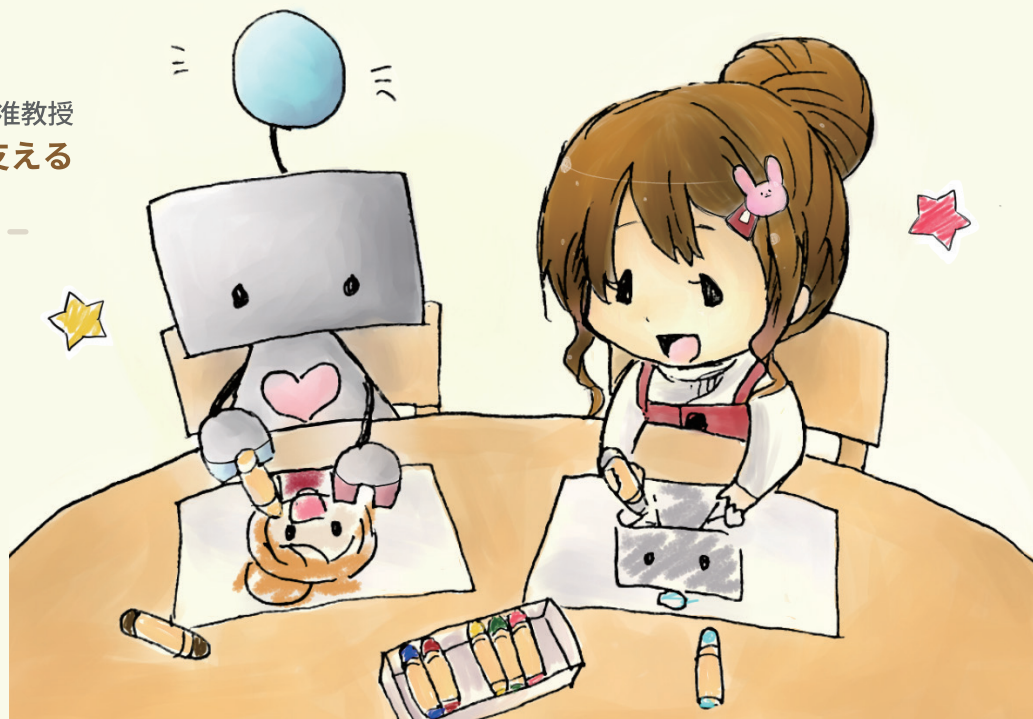
お問い合わせ・主催

大阪大学 先導的学際研究機構附属
共生知能システム研究センター
イベント事務局: event@otri.osaka-u.ac.jp

 大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



<http://osku.jp/e0602>



鹿子木 康弘

大阪大学大学院
人間科学研究科 比較発達心理学研究分野
准教授

自己紹介

高 校：大阪府立茨木高校
大 学：立命館大学 心理学部 心理学科
大学院：京都大学大学院 文学研究科 行動文化学専攻
専 門：発達心理学
趣 味：サウナ
好きな時間：人とお酒を飲むこと
今年の目標：運動によるダイエット

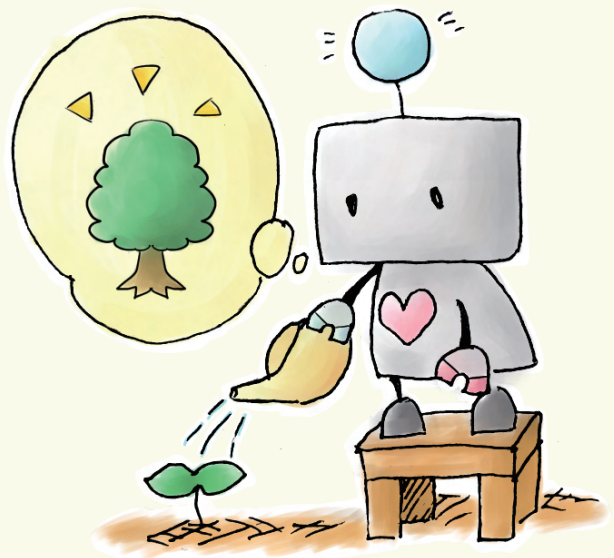


トークの概要

赤ちゃん研究では、ロボットや幾何学図形のアニメーションなどの人工物を用いて、赤ちゃんのこころの理解についての研究がおこなわれています。本講演では、それらの方法を用いて、講演者が今までにおこなってきた赤ちゃん研究を紹介します。具体的には、12 ヶ月児以下の赤ちゃんを対象とした社会的認知発達研究：他者理解や道徳性、他者からの学習に関する実証的研究を紹介します。本発表では、今までに積み上げられてきた知見の一部しか紹介できませんが、最新の赤ちゃん研究を通して、皆さんの赤ちゃん研究への理解が深まってくれば幸いです。

メッセージ

皆さんは、赤ちゃんが白紙の状態で生まれてくると考えているでしょうか？ それとも、なんらかの知識が生まれながらに備わっていると考えられるでしょうか？ 20 世紀の前半までは、赤ちゃんは白紙の状態で生まれてくると考えられていましたが、それ以降の科学的な研究により、赤ちゃんの驚くべき能力が明らかにされています。たとえば、生後半年までに、重力の理解や物体間の因果関係の理解、簡単な足し算や引き算ができることなどが示されてきました。さらに、近年では、生まれて間もないころから他者の行為の良し悪しを判断したり、生まれながらに他者にやさしくしたりすることもわかっています。このように、赤ちゃん研究は、人間がどのように発達するのかという問いを追求するだけでなく、人間とはどのような存在なのかといった哲学的な問いにも迫れます。発達という現象に興味を持って、1 人でも多く、この分野の研究者を目指してもらえるととても嬉しいです。



吉川 雄一郎

大阪大学大学院
基礎工学研究科 システム創成専攻
准教授

自己紹介

高 校：大阪府立茨木高校
大 学：大阪大学 工学部 電子制御機械工学科
大学院：大阪大学大学院 工学研究科 知能・機能創成工学専攻
専 門：知能ロボット学
趣 味：ジョギング
好きな飲み物：コーヒー
今年の目標：研究室をきれいにする



トークの概要

近年のロボット技術の発展は目覚ましく、人型ロボットを見かけることは今や珍しいことではありません。人が操作するタイプのロボット（アバター）を使えば、人は、様々な場所で、普段と違う姿形で、人と関わることができます。本トークでは、そのようなロボットやロボット技術を介する形により、人と人のコミュニケーションを支援することを目指して進めている研究を紹介します。人はだれしも、いつでも、だれとでもうまくコミュニケーションできるわけではありません。皆さん自身のコミュニケーションのヒントが見つかるかもしれません。

メッセージ

人とコミュニケーションをするロボットを作っていると、普段自分がしているコミュニケーションって簡単ではないのだな、ということや、簡単にできていると思っていたけど、自分も実はあんまりうまくできていないな、ということを実感します。それでも、ほんの少しの工夫や発想の転換を積み重ねて、ロボットとのコミュニケーションや、ロボットを使った他の人とのコミュニケーションが、少しずつうまくできるようになってきます。そこでは、ロボットの研究をしていたはずなのに、複雑なように見える人間のコミュニケーションの原理を理解できたと思える瞬間が楽しめます。これが、人とコミュニケーションするロボットの最大の魅力だと思います。このために、普段私たちは研究仲間同士で、何時間もぶっ通しで議論をします。これが研究の大きな要素です。皆さんも一つのことでも徹底的に人と議論したことはありますか？ どんな問題解決のテーマでも、生みの苦しみの果てに、アイデアを得たり、それを仲間と共有したりする体験は、強い快感をもたらしてくれます（本当は、これを一緒にやってくれるロボットが作りたいです）。オンラインでもできますので、ぜひ何かテーマを見つけて議論（研究）を楽しんでみてもらいたと思います。

